

令和6年度第1回大分市公共施設マネジメント推進委員会 概要

I 日 時：令和6年7月4日（木）14：00～

II 場 所：大分市役所議会棟3階 第四委員会室

III 出席者（敬称略）

〔委員〕河野 祐子、田中 孝典、長崎 浩介、森永 啓、阿南 春美、田原 乃々花

〔事務局〕大分市企画課（公共施設マネジメント推進室）

IV 次第

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

① 大分市公共施設等総合管理計画の改訂に向けた検討について

② その他

4 報告事項

① 公共施設使用料金の見直しと算定基準の統一化に向けた検討について

5 その他

6 閉会

V 議事概要：以下の通り

〔事務局〕 3 議事「①大分市公共施設等総合管理計画の改訂に向けた検討について」を説明

〔説明概要〕

● 改訂にあたってのポイントとして以下の3点を説明

①長期的な投資的経費の推計

➤公共建築物やインフラに要する改修・更新費（投資的経費）の圧縮に向け、施設の延命化（長寿命化対策）をした場合の費用推計（暫定版）を提示。

➤その結果、長寿命化対策を講じることで費用の圧縮効果は見られたが、直近の実績額と比較した場合、高止まりとなる見込み。

➤一方で、公共建築物を70～80年程度使用するにあたり、劣化の軽減を目的とした防水・外壁改修等を定期的に実施することが必要不可欠と考えられるため、当該改修を対策費用として計上した場合には、直近の実績額を下回る結果となった。

➤施設の老朽化が進行する中で、より多くの施設へ対策を講じる必要がある。

②施設保有量の最適化に向けた検討

➤現行計画にて「更新対象となる施設全体の延床面積20%程度の縮減」を掲げているが、総面積は増加傾向。

➤面積削減余地が大きい「建替」に該当する施設の面積は、築年数を踏まえると全体の1%未満であることから、別の対応を検討する必要が出てきている。

③社会的ニーズへの対応

➤脱炭素化に向けた取組に関する基本的な考え方を整理。

- [委 員] 今後の必要となる費用の推計を行うとのことだが、その推計額が今後の予算査定に影響を与えるのか。
- [事務局] 本推計は、今後必要となる費用を推計し、長寿命化を柱とした取り組みを進めることで費用の圧縮が図られるという点についての確認と方針及び目標値として謳うことを趣旨とした推計となります。
- また、今回の推計で申し上げると、これまでと同様の長寿命化対策を講じるのみでは、実績値と比べて推計費用が高止まりすることから、本市の財政・人口規模に見合ったものとするため、面積の削減等も併せて積極的に行う必要があります。
- そういった点から、今後の公共施設等への対策の必要性を確認するためであり、今回の推計金額が予算査定に紐づくというものではありません。
- [委 員] 施設マネジメントの推進にあたって重要となるのが、庁内での検討体制だと思います。今までは部局単位でのやり取りで完結してしまっていたということで、市として総合的な動きが上手く取れていなかったということかと思います。全庁的に俎上に載せる仕組みづくりが重要かと思いますので、そうすることで自動的にチェックがかかるような仕組みを作っていければ、より実効性のある計画になるかと思うので、その辺りを意識していただければと思います。
- [委 員] 計画の実効性を担保する上では、事業実施のための予算化にあたり、公共施設マネジメント推進室やそこが所管する会議体の承認を得ることを条件などとしていかないと、結局、計画はあるけど絵に描いた餅になりかねない。
- 実際、計画策定当初から面積は増加していることなどを踏まえると、本計画を踏まえた牽制機能が働いたかというところではないと思われるので、どのように実行していくをしっかりと考えていく必要があるかと思います。
- [事務局] 委員のご指摘のとおり、事業と予算はセットとなりますので、予算に関する権限をどのように考えていくかが重要と認識しております。
- 現在、公共施設マネジメント推進室には、予算査定やそれに類する権限がないため、それを補完できるスキームが必要かと考えます。そういった点について、財政や人事の部局と協議してまいりたいと考えております。
- [委 員] 施設保有量の最適化にあたっては、施設別の面積を見ても、学校と住宅が多い。学校は児童・生徒数が減少傾向であっても、教育環境の変化により中々縮減が難しく、公営住宅も入居者がいる中で、すぐさま縮減の対象とはならないかと考えます。
- おそらく予算の査定をする会議があるとは思いますが、公共施設マネジメント推進室がそこに関与することになったとしても、縦割りにならず上手く横ぐしをさせるような仕組みを作ることが大事と考えます。
- そのためには、施設のあり方を検討する段階等には、単体の施設だけでなく、近隣の公共施設も審議の対象とし、それが全庁に共有されておくことが重要かと思うので、そういった点にも踏み込んで検討していただけるといいかと思います。

〔委員〕 人口減少が進む中で、人口規模にあった施設保有量としていくことは重要ですが、消防や防災といった施設は、人命に関わるので、単純に削減というのは難しいと思います。なので、施設の種類や内容を問わず、一気呵成に満遍なく、施設総量の削減ではなく、重み付けといったことも重要かと考えます。

〔委員〕 施設の長寿命化をしていくことで、長期的に考えたときに効果があまりない、もしくは、逆に費用が高くなってしまう期間もあるということでしたが、20～30年後となると今の10～30代の方々は、働きざかりのときに負担が大きくなることになりますので、そういった世代の方々の意見を吸い上げるような仕組みづくりがあると、大分市としての公共施設のあり方を検討するにあたっての参考になるのではないかと思います。

〔事務局〕 利用される立場、また今後、主として負担いただく立場としても若い世代の方からのご意見は非常に貴重と認識しております。

市としても、施策や取組に若者の意見を取り入れていきたいと考えてはおります。公共施設の分野に関して、どのように反映していくかというところはございますが、今後の参考にさせていただければと思います。

〔委員〕 大分市は若者応援条例が施行されていますし、若い方々の公共施設に対するニーズというのは把握しておくのも重要かと思います。

〔委員〕 例えば、学校は上の世代の方が思い入れがあることが多いですが、20年後に実際利用する人たちはどうかと考えると、意見は全く違うのではないかと思います。なので、聖域のような分野もあるかもしれませんが、本当にそうなのかは考えるべきかと思います。

〔事務局〕 おっしゃるとおり公共施設は地域の方々の想いや御理解が必要不可欠と考えております。将来的に負担いただく方や世代に対して、過大な負担を強いられないような仕組みを作っていく必要もございますし、仮に、施設を集約化や廃止したとしても、市民サービスが低下することを防ぐ、又は抑えることを念頭に置きながら地元の方への説明でお伝えする必要があるかと考えております。

〔事務局〕 3 議事「②その他」については、説明事項なし

〔事務局〕 4 報告事項「①公共施設使用料金の見直しと算定基準の統一化に向けた検討について」を報告（別途設置している外部委員会における審議状況の報告）

〔委員〕 質疑等なし